

10月の消費データは市場予想より良好だが・・・

日本の10月の消費関連データが公表された。販売側データの名目小売業販売額は市場予想の前年比0.7%に対し結果は1.9%、需要側データの家計調査の実質消費支出は市場予想▲1.5%に対し結果は▲0.4%と、いずれも上振れである。

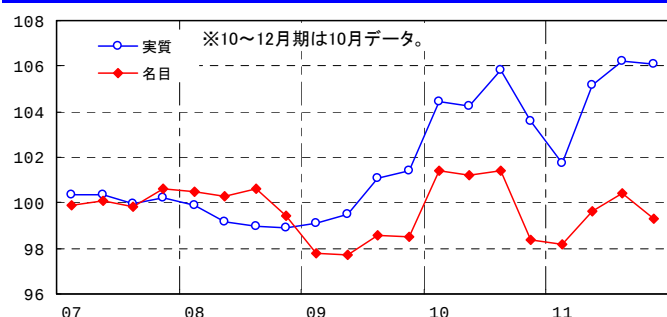
季調値で見ても、10月の消費関連データは強い。小売業販売額は前月比1.4%、当社試算の実質ベースでは1.8%増加している。実質ベースで内訳を見ると、地デジ移行特需の剥落により機械器具小売業が▲3.1%（9月▲1.1%）と4ヶ月連続で落ち込んだものの、供給制約の解消が引き続き寄与している自動車が3.8%（9月2.5%）と3ヶ月連続で増加、加えて冬物販売の好調により織物・衣服・身の回り品が4.5%（9月▲3.1%）と大きく伸び、全体を押し上げた。

小売業販売額は、財データに限られるが、サービスを含む家計調査の実質消費支出額（季調値）も10月に前月比0.3%（9月0.9%）と引き続き増加している。小売業販売額と同様に、冬物の好調から被服及び履物が12.1%（9月▲7.8%）と大幅に伸びたほか、保健医療（8.1%）や教養娯楽（5.2%）、住居（3.1%）が堅調だった。なお、薄型テレビ購入を含む教養娯楽用耐久財は前年比▲50.9%と落ち込んだが、サービス関連（宿泊料など）の持ち直しにより、家計調査の教養娯楽向け消費支出は、販売側データの機械器具小売よりも強めの推移となっている。

しかし、7～9月期対比で見ると、10月の個人消費は必ずしも好調とは言えない。10月の実質小売業販売額は7～9月期平均を0.1%下回る（7～9月期前期比1.0%）。家計調査の実質消費支出額は10月が7～9月期平均を0.9%上回るものの（7～9月期1.4%）、消費支出に含まれない住居関連を除くと0.5%上回るに過ぎない（7～9月期1.2%）。10月が予想を上回ったことで、10～12月期の個人消費が急速に落ち込むリスクは低下したが、それでも前期比では横ばい近傍にとどまる可能性が引き続き高いと言えるだろう。

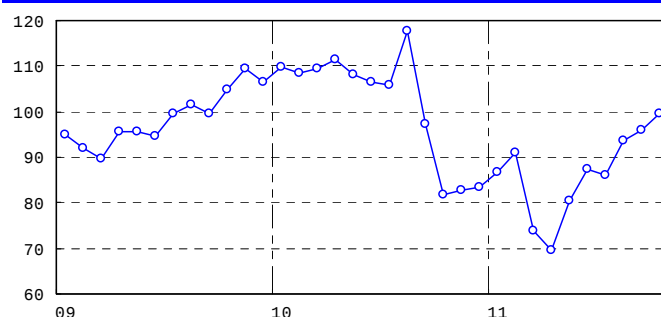
もちろん、個人消費の10～12月期低調は7～9月期に前期比1.0%と大きく伸びた反動が大きい。しかし、7～9月期の高い伸び自体が、震災による大きな落ち込みから自動車販売やサービスが復調したことによる水膨れだったとも言える。いずれにしろ、個人消費の減速に加え、世界経済減速及びタイの大洪水によるサプライチェーン寸断の影響による輸出鈍化もあり、日本経済は7～9月期の前期比1.5%高成長から一転、10～12月期はゼロ成長程度にとどまると考えられる（当社予想は前期比0.0%、年率0.2%）。

小売業販売(2005年=100、四半期)



(出所)経済産業省等より当社試算

自動車小売業(実質、2005年=100)



(出所)経済産業省等より当社試算

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、伊藤忠経済研究所が信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。記載内容は、伊藤忠商事ないしはその関連会社の投資方針と整合的であるとは限りません。